

2019 年 11 月 13 日

公益財団法人みちのく未来基金
代表理事および業務執行理事業務報告
(報告対象期間:2018 年 10 月～2019 年 9 月)

【奨学金給付事業関連】

1. 奨学金の給付状況

第 2 期生から第 8 期生までの奨学生に対し、奨学金の給付を実施いたしました。

① 給付人数

第8期給付対象人数および第9期生の給付申請状況は以下の通りです。

◆ 第 8 期給付対象者数 (単位:人)

	合 計	岩手県	宮城県	福島県	3 県以外
合 計	318	104	170	20	24
国公立大学	35	17	15	0	3
私立大学	212	65	118	14	15
短大・専門学校	71	22	37	6	6

【内訳】

		合計	岩手県	宮城県	福島県	3 県以外
合計	2 期生	3	1	2	0	0
	3 期生	8	5	2	0	1
	4 期生	9	4	5	0	0
	5 期生	54	18	30	3	3
	6 期生	75	24	39	4	8
	7 期生	85	24	49	7	5
	8 期生	84	28	43	6	7
国公立大学	2 期生	2	1	1	0	0
	3 期生	6	4	2	0	0
	4 期生	0	0	0	0	0
	5 期生	8	4	4	0	0
	6 期生	7	4	2	0	1
	7 期生	5	3	2	0	0
	8 期生	7	1	4	0	2
私立大学	2 期生	1	0	1	0	0
	3 期生	2	1	0	0	1
	4 期生	9	4	5	0	0
	5 期生	45	14	25	3	3

	6期生	59	16	34	3	6
	7期生	50	12	31	4	3
	8期生	46	18	22	4	2
短大・専門学校	5期生	1	0	1	0	0
	6期生	9	4	3	1	1
	7期生	30	9	16	3	2
	8期生	31	9	17	2	3

※2019年9月末現在

2019年9月末現在、第2期生から第8期生まで、奨学金給付を行っている人数は上表の通りで、合計318名です。なお、2018年9月から2019年9月末までに、自主退学等の理由により、9名について給付を停止しました。

基金発足時から2019年9月末現在、第1期生から第8期生までの延べ給付人数は811名です。

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	811	279	437	51	44
1期生	96	36	53	6	1
2期生	126	37	79	6	4
3期生	111	46	50	10	5
4期生	104	31	63	2	8
5期生	93	37	43	8	5
6期生	108	40	51	6	11
7期生	89	24	55	7	3
8期生	84	28	43	6	7

[第9期給付者数見込み]

第9期については2020年3月に101名が卒業予定で、第9期生としての進学希望者が98名いるため、第9期の給付者数は最大で315名となる見込みです。

② 給付予定金額

第9期奨学金給付予定金額

第2期生への年間給付予定金額	1,000千円
第3期生への年間給付予定金額	1,000千円
第4期生への年間給付予定金額	3,000千円
第5期生への年間給付予定金額	3,000千円
第6期生への年間給付予定金額	69,000千円
第7期生への年間給付予定金額	58,000千円
第8期生への年間給付予定金額	83,000千円
第9期生への年間給付予定金額	124,800千円
給付予定金額総計	342,800千円

第9期の給付予定金額は342,800千円になる見込みです。この約3.4億円の試算をベースに年間の資金繰りを行ってまいります。

2. 第9期生の募集状況

2019年4月より、第9期生の募集を開始いたしました。

◆第9期奨学金給付希望者数（単位：人）

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県外
合計	98	29	54	4	11
国公立	16	5	9	1	1
私立	50	15	28	1	6
短大・専門	32	9	17	2	4
志望校未定	0	0	0	0	0

※上記の表は9月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金の給付が開始されます。

基金の調査では、2020年春高校卒業予定の震災遺児は110名で、そのうち進学希望者は90名です。また、2020年春以前に高校を卒業し、現在浪人中の進学希望者が8名いるため、第9期生としての奨学金給付希望者数は合計98名となります。

3. 第9期生以降の対象者の把握

厚生労働省が2015年9月時点の震災遺児の居住地状況を把握したデータから、全国の震災遺児の総数は1,782名（うち岩手・宮城・福島の被災3県以外は171名）となっており、基金で独自に被災3県をはじめ、全国の該当する行政窓口、教育委員会、中央共同募金会（赤い羽根）等、様々な機関へのアプローチを実施した結果、第10期生から第20期生まで合計442名（うち3県以外は34名）について、支援予定者として把握いたしました。

4. 選考委員会の開催

内閣府の公益法人（助成型）の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められております。これに基づき以下の様に選考委員会を開催いたしました。

「第9期生選考委員会」

2019年8月31日（土） 11:00～12:30（於：ホテルメトロポリタン仙台 桃李）

・出席委員

庄司 恒一 元宮城県高等学校長協会会長 ・ 元宮城県仙台第二高等学校長
横田 昭彦 元岩手県立高田高等学校長
杉 昭重 元福島県教育委員会教育長 ・ 元福島県立安積黎明高等学校長（欠席）

・事務局

長沼孝義、竹中俊之、武田康嗣、嶋瀬紀子

第9期奨学金給付対象者（2020年4月からの奨学金給付開始者）について、東日本大震災の遺児であることの確認、および進学先の承認を諮り、異議なく承認いただきました。

また給付対象となる学校について規程を変更しましたので、その説明を行いました。

5. 年次面談の実施

2018年9月から11月にかけて、盛岡・東京・仙台の3会場において、奨学生全員との面談を実施いたしました。この面談は、基金スタッフが全ての奨学生の話聴ける年に一度の機会であり、学生生活の様子や困りごとなどを聴き、奨学生の心のケアにつなげることを目的に、基金のもっとも重要な活動となっています。待合スペースにおいて奨学生同士が交流するとともに、サポートスタッフとして多くの奨学生が協力してくれて、資料記入の案内や待合いでの声掛けなどを進めてくれました。

また今年も9月に5日間東京での面談を実施し、120名のみちのく生が元気な姿を見せてくれました。

6. 「第8期生の集い」の実施

2019年3月15日から17日にかけて、「みちのく未来基金 第8期生の集い」を実施いたしました。テーマを「みんなの想いで広がる『わ』」とし、奨学生同士やサポーターの皆様方との出会いを通じて、交流の「わ」が一層広がるようにとの願いを込めて開催し、第8期生84名のうち59名が参加しました。今回も企画の段階より先輩の奨学生たちにも参加してもらい、招待状の作成から始まって様々な準備を担ってくれました。集い当日にも53人のサポートスタッフが集まり、各プログラムの進行や新入生のフォローなど、集いの運営を力強く支えてくれました。

みちのく生や当日ご出席のサポーターの人数が年々増えていることに伴い、今回から会場を仙台国際センターに変更し、サポーターの皆様全員に同じ会場のみちのく生のスピーチをお聞きいただけるようになりました。

また、これまでと同様、卒業した第2期生の作成したデザイン「はなびよ」を集いのシンボルマークとして、スタッフジャンパー等に用いました。

集いの2日目には、第8期生を迎えてレクリエーションと「語りの時間」を実施し、3日目には、第8期生が一人ひとりの夢を発表する「門出の会」を行いました。

あわせて、2019年3月に卒業を迎えたみちのく生のための「旅立ちの会」を行い、卒業生77名のうち19名が出席して、一人ずつあふれる想いと社会へ旅立つ覚悟を力強い言葉で語ってくれました。

「同じ経験をした者どうしが集まるみちのくは、何でも話せる大切な場所でした」

「時には厳しいことも言ってもらい、親を亡くした私たちにとって基金は貴重な存在です」

「みちのく未来基金でスタッフやサポーターの方々から受けた愛情を、これからは教師として子どもたちに与えられるようになりたい」

などのスピーチに、会場からは温かい拍手がおくられました。

7. 夏の交流イベントの実施

奨学生同士の定期的な交流促進のため、2019年5月25日に仙台と東京の2会場にてバーベキューイベントを実施し、両会場あわせて奨学生34名が参加しました。

また、8月18日から19日にかけて、1泊2日で宮城県仙台市の秋保リゾートホテルクレセントにて「夏の集い」を実施し、奨学生33名が参加し、チーム対抗での「謎解き宝探し」や「語りの時間」などを実施しました。

これらのイベントは3月の集いで生まれた奨学生同士の交流をより深め、触れ合える仲間を増やすことを目的としています。各イベントにおいては、学年や出身地等を問わず心を開いて共に楽しく過ごす時間を持つことができ、一層交流が深まりました。

8. みちのく未来基金 SNS の活用

2012年3月より、奨学生同士の交流促進を目的に、専用のソーシャルネットワークサイトを開設しています。奨学生および基金関係者のみ利用可能であるクローズドな空間を構築することで、安心して交流できる環境を整えています。基金からの事務連絡や奨学生同士の交流のツールとして、機能の拡充を図りながら継続活用していきます。

また基金の専用 SNS とは別に、奨学生が自発的に LINE や Facebook 等を用いたコミュニケーションを活用しており、交流会の開催など気兼ねなく話せるコミュニティの活性化につながっています。

【法人運営関連】

9. 寄附金受入状況

寄附金内訳(第8期2018年10月1日～2019年9月30日迄累計)

	金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・法人数等	人数・法人数等比率
個人	121,468	24.9%	11,459	93.6%	1,991	84.2%
法人・団体	366,575	75.1%	782	6.4%	373	15.8%
計	488,043	100.0%	12,241	100.0%	2,364	100.0%

基金発足時から2019年9月30日まで、通期では約44億円の寄附が集まっている状況であり、スタッフ派遣企業4社を除いても約37億円の寄附をいただいております。第8期は9月30日までの1年間で約4.9億円の寄附をいただきました。また、第8期より支援企業として新たに5社から申請をいただき、支援企業・団体数は86社となっております。

第8期から新規に申請いただいた支援企業は以下の通りです。

(株)イオンテクノセンター、(株)KEG、兼松サステック(株)、シオノギ社会貢献支援会、とどけ和の響き邦楽チャリティーコンサート

※大口寄附については別紙②に記載。

10. 第8期決算

※別紙①にてご説明いたします。

11. 広報活動

①「みちのく未来通信」の発行

寄附者や奨学生等の基金関係者に対して、みちのく未来基金の現状をお伝えする広報紙「みちのく未来通信」を、2018年9月(第20号)、2019年1月(第21号)、2019年4月(第22号)に発行いたしました。また、2019年9月に第23号の発行し、今後も年間3回の発行を継続いたします。

③ 各種取材対応

2019年3月実施の「第8期生の集い」については地元地方紙を中心に、複数の報道機関で紹介されました。この他にも各種企業・団体からの問い合わせや取材依頼、説明依頼等に対し、スタッフ全員で対応いたしました。

④ 基金ホームページの改訂

基金のホームページについては随時改訂を行っております。

⑤ Facebook の利用

月 1~2 回の頻度で記事の更新を行い、閲覧回数を増やすようにしております。奨学生の閲覧も多く、交流が深まるきっかけともなっています。

12. その他特記事項

①サポーター企業・団体への訪問

代表理事を中心にスタッフ総出で、継続してご支援いただいている企業・団体を訪問し、御礼とともに活動状況をご報告しており、第 8 期においては、2019 年 9 月末までに 48 社を訪問いたしました。

訪問時には、「寄附がどう使われているのか実感を持たせたい」「これからも支援していきたい」とのお言葉をいただいております、今後も継続的に実施してまいります。

また昨年の理事会での協議を踏まえ、高額の寄附を頂戴している支援企業 12 社(個人 1 名含む)に対しまして、減額をお願いに伺いました。各社とも基金の資金状況を快く理解していただきました。その結果、次期以降年間総額で約 1 億円の減額が見込まれます。

②将来のみちのく生

また岩手・宮城・福島県の行政や中央共同募金会・あしなが育英会の協力により、新たに 31 名の将来のみちのく生情報を入手することができました。

③お礼の会の企画

2020 年 10 月でみちのく未来基金の活動が 10 年目を迎えるにあたり、設立から現在に至るまで活動を支えてくれた方々を招待し、「みちのく未来基金 10 年目のお礼の会(仮称)」を 2020 年 10 月 25 日に東京・品川で開催することを決定し、準備を開始しました。

④寄附に関する研究

みちのく未来基金がサポーターから長期に支援される理由を研究し、基金活動の成果と、今後必要に応じて社会貢献活動を行う団体にも提供可能な情報とするべく、寄附研究の専門家(宮城大学石田准教授他)の協力のもと、支援企業 14 社へのヒアリング調査を開始しました。2019 年 9 月末までに 7 社へのヒアリングが完了しました。

13. みちのく未来基金の運営スタッフ体制について

2019 年 9 月末現在のみちのく未来基金事務局のスタッフ構成及び業務担当は以下の通りです。

<みちのく未来基金事務局>

長沼 孝義	: 代表理事(全体責任者)
竹中 俊之	: 業務執行理事(業務統括)
佐藤 美甫	: 内務業務(総務経理事務)
齋藤 雅子	: 内務業務統括(会計・奨学金管理)
武田 康嗣(カゴメ株式会社)	: 学校訪問統括(岩手沿岸部担当)
嶋瀬 紀子(カルビー株式会社)	: 学校訪問(石巻・県外担当)
雫石 光彦(カルビー株式会社)	: 内務業務(寄附金管理)
小野 大騎(カゴメ株式会社)	: 内務業務(奨学金管理)
北川 宣人(エバラ食品工業株式会社)	: 学校訪問(福島県・気仙沼・岩手県内陸部担当)
原田 直信(ロート製薬株式会社)	: 内務業務(寄附金管理)
奈良 朱里(ロート製薬株式会社)	: 学校訪問(仙台市近郊)

以上